

上部消化管内視鏡検査(経口) 説明書

下記の方は、健康センターではこの検査は実施できません。

- 妊娠中の方、妊娠の可能性がある方
- キシロカインアレルギーの方

下記の方は、健康センターではこの検査が中止になる可能性があります。

- 授乳中の方
- 抜けそうな歯がある方
- 当日収縮期血圧 180mmHg 以上の方

1. この検査の目的

この検査は、口から直接内視鏡を挿入し、食道、胃および十二指腸を観察し(図1)、潰瘍、ポリープ、がん、炎症などの病気の診断を行うことを目的としています。

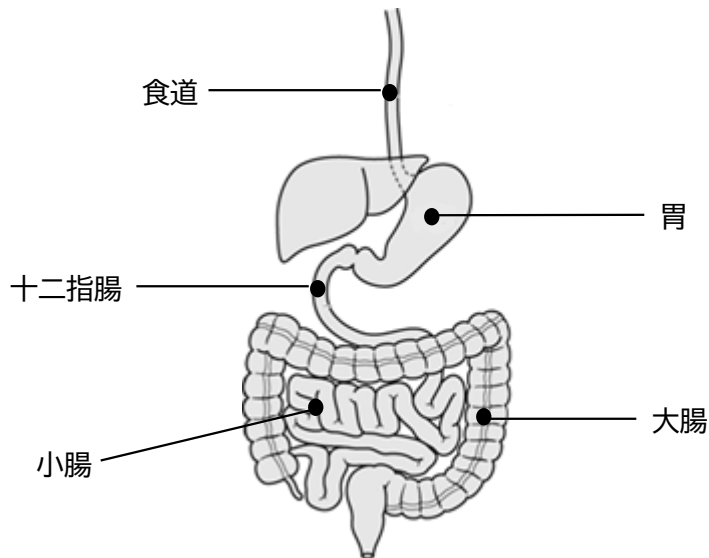


図1 食道、胃、十二指腸の位置

2. 検査の内容・注意事項

検査前日は 21 時以降に食事を摂取しないでください(飲水は可)。
検査当日の内容と注意事項は以下の通りです。

①前処置

- ・胃の粘液や泡を消し観察しやすくする薬(ジメチコン)を内服します。
- ・嘔吐反射を防ぐことと、のどの痛みを軽減するために、麻酔の薬(キシロカイン)を喉に噴霧します。まれにこの薬によるアレルギー反応(血圧低下や呼吸困難)が起こる場合があります。以前、内視鏡検査や歯の治療 で気分が悪くなったことがあればお申し出ください。

②内視鏡の挿入

内視鏡を口から挿入し、食道、胃、十二指腸に挿入します。

③内視鏡による食道、胃、十二指腸の観察

内視鏡を通じて空気を送り、食道、胃、十二指腸を膨らませて観察を行います。そのため、検査中は多少お腹が張ります。

④生検(組織採取)

検査中に組織を採取する場合(生検)があります。この場合少量の出血を伴いますが、通常、自然に止まります。しかし、まれに出血が持続したり、大量出血となる場合があります。

抗凝固剤、抗血小板薬(血液が固まるのを防ぐ薬)を服用中の方や肝臓疾患・血液疾患がある方などは、その危険が増すため生検を行ないませんので、必ずお申し出ください。また、抗凝固剤、抗血小板薬の服用の中止は、現疾患の悪化をまねく可能性がありますので中止せずにお越しく下さい。

3. 検査に伴う危険性

①前処置によるもの

ジメチコン、キシロカインによるアレルギー(ショックなど)がありますが、このような症状がみられた場合は適切に対処します。

②検査自体によるもの

内視鏡検査時にごくまれに、のどや食道、胃、十二指腸を傷つけ、出血や穿孔(胃や腸に孔(あな)があく)などが起こることがあります。

なお、出血がひどい場合には、内視鏡的処置や輸血が必要となることがあります。また、止血が困難な場合や穿孔が生じた場合には手術となることがあります。

その際の診療は、保険診療で行いますのでご了承下さい。

4. 検査後の注意事項

検査後は、のどの麻酔が効いていますので、約1時間は飲食を控えてください。生検が行われた場合には、帰宅後も再出血することがありますので、体の違和感、吐血や黒色便などにお気づきの場合には、遠慮なくご連絡ください。

5. 代替可能な検査

食道、胃、十二指腸の検査は、上述の内視鏡検査以外に、バリウムなどの造影剤を用いた上部消化管 X 線検査(いわゆる胃透視)があります。しかし、X 線検査では異常を認めた場合に生検(上述)を行うことができません。

6. 検査の同意を撤回する場合

いったん同意書を提出しても、検査が開始されるまでは、検査をやめることができます。やめる場合にはその旨を健康センター職員までお申し出ください。

7. お問い合わせ

この検査についてご質問がある場合は、相澤健康センターまでご連絡下さい。

上部消化管内視鏡検査を受けられる方には 検査前に義歯(入れ歯)を外して頂いております。

義歯を装着して検査を実施した際

【総入れ歯の場合】

- ◆内視鏡が喉を通過し難い
- ◆内視鏡の操作に支障を来す

【部分入れ歯・小さな入れ歯の場合】

- ◆外れた入れ歯が気管に入り、窒息の可能性がある
- ◆飲み込んでしまうと、内視鏡による回収又は開腹手術となる
- ◆喉や食道を傷つける可能性がある



以上のような危険性があることから入れ歯を外して頂いております。

ご協力を得られず、上記のような不都合が発生しても治療費はご自身の負担となり、義歯破損の補償も致しかねますのでご了承下さい。

なお、ぐらつきのある歯や抜けそうな歯がある場合は、検査中の脱落による同様の危険性があるため、検査中止になる場合があります。ご了承下さい。